



2025年12月24日

日本鉄道労働組合連合会

JR九州連合第35回定期大会

JR九州連合は11月21日、福岡市内で第35回定期大会を開催し、1年間の運動方針を決定するとともに、運動を牽引する幹事会を選出した。

主催者を代表してあいさつした吉田祥司会長（JR連合副会長・JR九州労組中央執行委員長）は、安全の確立、組織強化・拡大、労働条件の維持改善等に対する所信を述べるとともに「お互いを尊重し理解し合える組織を作りあげよう」と呼びかけた。

来賓には、JR連合から上村良成会長と住吉一家労働政策局長が出席し、上村会長が2026春季生活闘争を取り巻く情勢を報告するなど、連帯のあいさつを述べた。

議事では、執行部が提案した運動方針（案）に対して2名の代議員が質疑に立ち、鎌光俊勝事務局長の答弁を経て、全議案が満場一致で決定した。また、運動を牽引する20名の新役員が選出され、再任した吉田会長の団結ガンバローで閉会した。

労働基準関係法制の見直しに向けた学習会を開催

大会の開催前には、厚生労働省において議論されている「労働基準関係法制の見直し」について、現時点の検討状況や課題、労働組合として目指すべき方向性などについて学習会を開催した。

講師として出席したJR連合の住吉労働政策局長は、「労使関係の中核的役割を担うのは労働組合であり、その他の任意団体が社員代表を務めることは困難」などと説明し、労働組合の活性化につながるような政策推進や、教育研修の充実を求めるとともに、過半数代表者に過度な権能を与えすぎないよう注意すべきと警鐘を鳴らした。



吉田会長 上村会長



学習会の様子